



金融のプロが資産運用をアドバイス 私のお財布はこれで育てる！

世界で起こる出来事が、私たちのお金に影響する可能性は大いにありそう。では、具体的にどんなタイプの金融商品を使って資産を守り育てていけばいい？ 金融のプロのみなさんにアドバイスをもらいました。

少額の金額でも こまめに貯金をする習慣を

家計の状況の変化や、急な出費にあわてないために、まずは“いざというときのための備え”として、預貯金を持つておくことがよいでしょう。

短期間で大きな金額を用意するのはなかなか難しいので、少額の金額でもこまめに貯金をする習慣を、ぜひ身につけてください。貯金をするのなら、普通預金(貯金)より金利が高い、定期性預金(貯金)がおすすめです。定期性預金(貯金)の中にも、1000円から預け入れができて、半年過ぎればいつでも払い戻しができる商品や、半年複利の商品などがあります。金利上乘せがあるときは、さらにおトクですね。



ゆうちょ銀行
営業部門営業企画部広告宣伝担当
安達麻利恵さん

◆活用したいのは◆

普通預金(貯金)より金利が高
めで手軽に払い戻しができる
定期性預金(貯金)



三菱東京UFJ銀行
リテール業務部
投資商品グループ 調査役
濱田玲さん

老後資金は早めの準備が大切 コツコツと積み立て、運用を

老後資金が心配なら、「長期運用」「分散投資」でリスクを分散しながら運用して資産を育てることを考えましょう。まずは月々1万円程度から始められる投資信託の積み立てを利用しては。自宅で好きなときに気軽に取り引きできるインターネットバンキングが便利です。手数料優遇などのキャンペーンがあるときは始めやすいですね。まとまった資金があるときは、円定期預金と投資信託を組み合わせると運用をしてみてもいい。合わせて利用することで、円定期預金の金利が優遇されるサービスもあります。

◆活用したいのは◆

長期運用なら、月々1万円程度
の少額から始められる投資
信託の積み立て。インターネ
ットバンキングの活用が便利

読者の「生活費の予備費や残りのお金」の使い方は？

少額は「普通預金」、 まとまったお金は「運用」など賢く商品選択

リビング読者に実施したお金に関するアンケート(10月20日～24日実施、有効回答者数812)によると、「生活費の予備費や残りのお金をどうしていますか？」という質問に、約半数が「普通預金に預けておく」と回答。「すぐに必要になりそう」「気軽に預けておきたい」というときは、普通預金を利用する人が多いようです。また、「教育資金」「マイホーム資金」など、少し先に必要な使用用途が決まったものへの備えは「定期性預金」を利用するケースが多くなっています。ボーナスなどまとまった資金があるときは、運用に回す人も。金融商品をうまく使い分けて、賢く資産運用をしていきたいものですね。

